

# 広瀬幸平のまなざし



## 新居浜市 別子銅山 旧広瀬邸・望煙楼からの眺め

広瀬幸平という人物は誰よりも周りをよく見ている人だった。38歳という若さで別子銅山支配人となり、仕事の合間にも独学で様々なことを学んだ。このような真面目さが後に新居浜に発展をもたらした。広瀬幸平はフランス人技師ルイ・ラロックの『別子鉱山目論見書』を参考に、次々に別子銅山の近代化の方針を示した。しかし、周囲と意見が合わないことも多々あり様々な壁にぶつかった。それでも広瀬幸平は己を突き通した。この旧広瀬邸にはそのような広瀬幸平のまっすぐな生き様が詰まっている。ここ、「望煙楼」の意味を知り、外に目を向けたとき、きっとあなたもその景観に広瀬幸平へ尊敬と感謝の意を表すことになるだろう。